

#### 4. 廃棄物

平成 19 年度のごみ排出量（家庭系＋事業系）は、昨年度と比較して増加しました。これは平成 20 年 4 月 1 日から始まった有料指定袋制度への移行前の「駆け込み需要」も一つの原因と考えられます。ごみ総量は増加しましたが、人口増の影響もあり、市民 1 人 1 日あたりのごみ量と比較すると、微減となっています。

今後さらにごみ減量を推進するため、廃棄物減量等推進委員を通じて、地域と密着した啓発活動を行なうとともに情報誌、チラシ、広報、市内路線バス車内放送等のさまざまな媒体を通じてプラスチックごみのリサイクル、資源化に向けた啓発に努める必要があります。



一方、事業系ごみは過去において微増傾向にありましたが、平成 7 年度をピークに平成 13 年度から若干減少に転じています。今後は地球規模での環境問題意識の高まりの中で、ごみの最終処分場の長期有効活用を促進していくためにも、ごみの埋め立て処分量を削減していく必要があり、「東京たま広域資源循環組合」ですでに稼働を始めている焼却灰のエコセメント事業を更に推進していきます。（[ごみ排出量等の推移](#)⇨資料編 P43）

平成 19 年度の冷蔵庫・エアコンの不法投棄については 17 件で、昨年度数を大きく下回りましたが、平成 22 年度 0 台という目標数値達成は困難な状況です。家電リサイクル法の制定以来、収集運搬手数料が高額になったことから、不法投棄が後を絶ちませんが、片付けるとまた捨てられるという状況にあるため、不法投棄をさせないために毎日パトロールを行っています。（[不法投棄台数の推移](#)⇨資料編 P44）

## 5. 下水道と上水使用量

市内の下水道普及率は100%（既成）に達しています。  
平成19年度の1人当たりの水使用量は約305ℓ/人・日で昨年度を上回ってしまいました。詳しい原因は不明ですが、今後も引き続き水の有効利用や節水についての呼びかけを行なっていきます。

（上水使用量の推移☞資料編P49）

### 雨水有効利用

- 草花への散水
- 防火用水
- 災害時非常用水

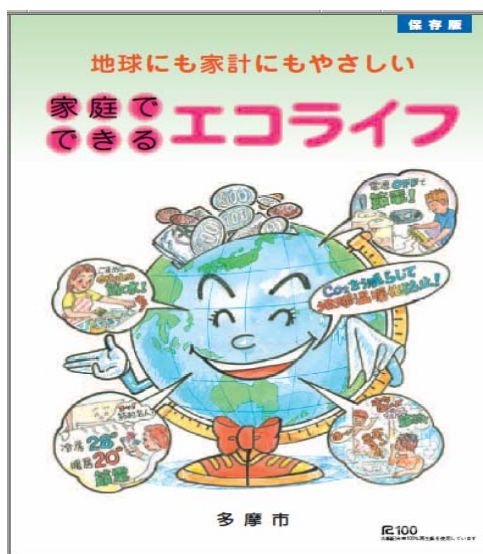
などに利用できます。



【雨水貯留槽】

## 6. エネルギー使用量

電力消費量・都市ガス消費量ともに14年度レベルから4.8%削減することを目標としています。



19年度の電力消費量は前年度比4.5%、都市ガス消費量も4.1%増加してしまいました。

猛暑であったことが影響していると考えられますが、目標達成にむけ今後もエコライフ普及啓発誌を使用した「家庭での省エネ」の普及・啓発活動をすすめていきます。

## 7. 市域の二酸化炭素排出量

市域の二酸化炭素排出量は、電力消費量、都市ガス消費量、プラスチックごみ焼却量を対象に換算しています。平成19年度に市域から排出された二酸化炭素は448,037トン(t-CO<sub>2</sub>)で、昨年度より9%近く増加しました。(詳しくは第3章「地球温暖化問題への取組み」[P25](#))



【多摩ニュータウン環境組合 多摩清掃工場】

